

史学委員会アーカイブズと社会に関する分科会（第26期・第1回）
議事要旨

日時：令和6年2月23日（金）10：00～12：00

会場：オンライン開催

出席者：大橋幸泰、川嶋四郎、芳賀満、飯島渉、石居人也、太田尚宏、長志珠絵、
香室結美、河西秀哉、岸本覚、久留島典子、後藤真、佐野正博、西田か
ほる、若尾政希（以上、15名）

欠席者：奥村弘、飯塚一幸

<議事>

（1）自己紹介

大橋委員（世話人）の進行により、出席者の自己紹介を行った。

（2）委員長・副委員長・幹事の選出

出席者協議のうえ、委員長大橋幸泰、副委員長奥村弘・太田尚宏、幹事西田かほる・岸本覚を選出した。

（3）第26期の活動について

本期分科会の活動として、①コロナ関係文書の保全と継承についてのフォローアップ、②被災資料への対応、③アーカイブズ教育の充実、が大橋委員長から提案され、とくに①③について意見交換がなされた。さらに④学術会議資料の保存・管理と公開もあわせて議論する必要があるなど、分科会活動の柱に関わる方向性を確認した。

（4）その他

大橋委員長から、第29回史料保存利用問題シンポジウム「裁判記録の現状と課題―保存と公開体制の確立を一」（2024年6月22日）について報告があり、本分科会として共催であることが承認された。